

第1回 認定こども園のあり方を考える ワークショップ

日時：令和5年6月24日（土）13:30～

場所：西伊豆町中央公民館

ファシリテーター：静岡大学教育学部 島田 桂吾

自己紹介

名前：島田桂吾

所属：静岡大学教育学部（教職大学院）

専門：教育行政学、幼児教育・保育制度

出身：埼玉県さいたま市（旧浦和市）

家族構成：妻、娘（年少）

“ワークシヨツプ”とは

○「ワーク (work)」の意味

- 「働く」
- 「作品」
- 「機能する」
- 「上手くいく」
- 「効果がある、効く」
- 「都合がいい」

“ワークショップ”の意味

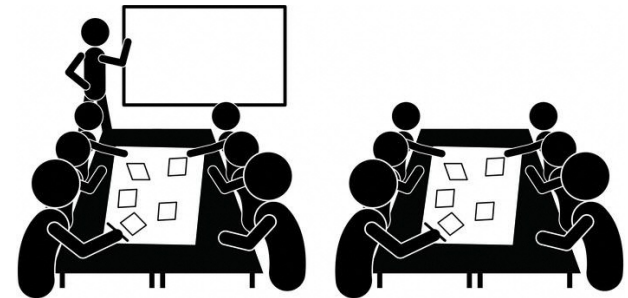
① 「仕事場」「作業場」



「自分たちにとってより良い「作品」をつくる」



② 「参加者が主体的に参加する講習会や研究集会」



この“ワークショップ”の「作品」

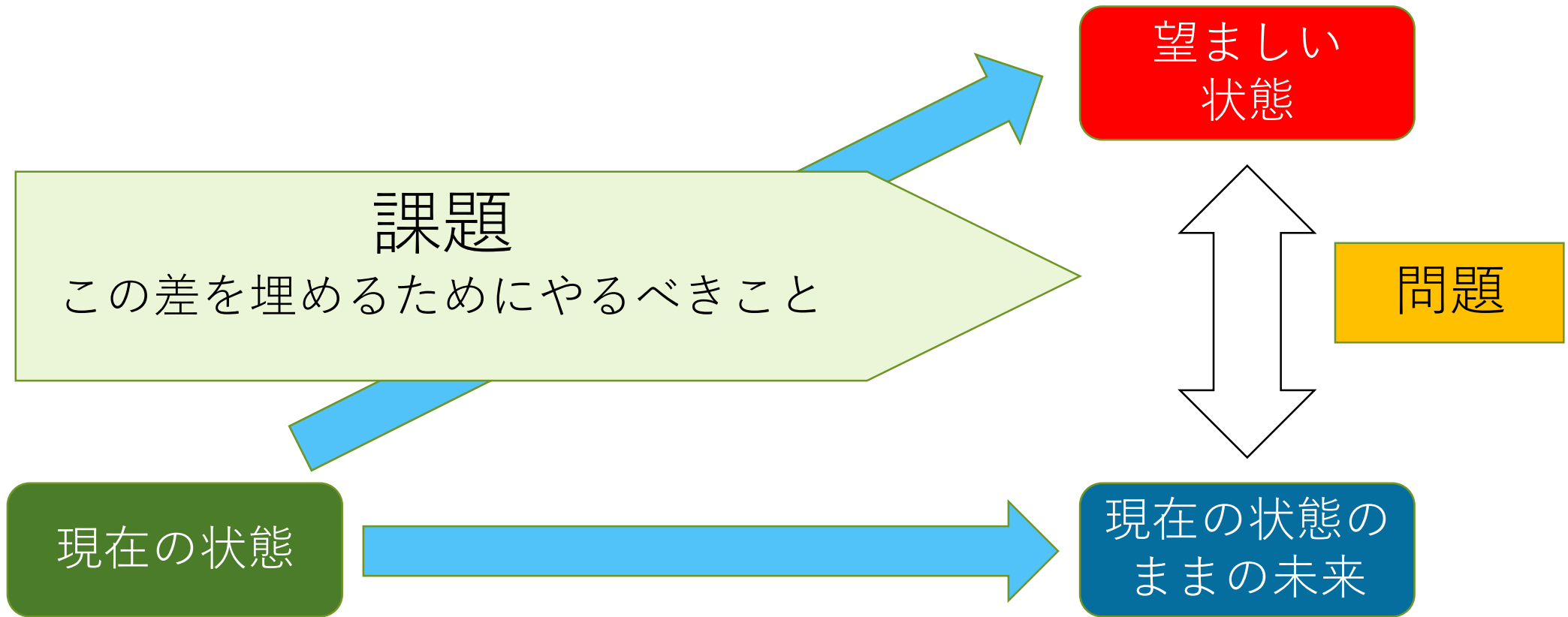
【将来的な目標】

西伊豆町の「望ましい保育環境」

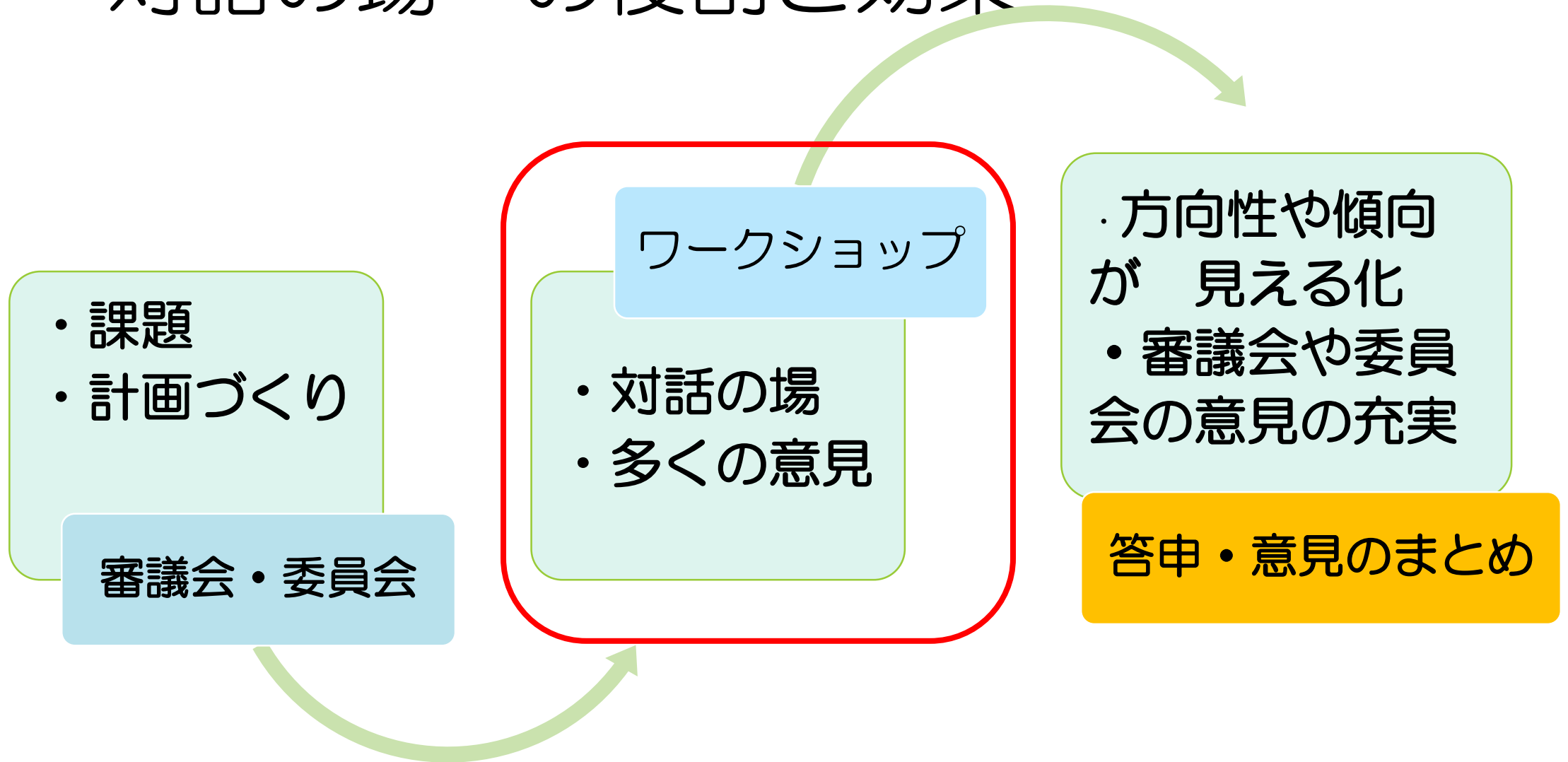
【ワークショップの目標】

こども園の現状や課題について『対話』を通じて学び合いながら、「望ましい保育環境」の在り方について意見を整理する

“課題解決（学習）”のポイント



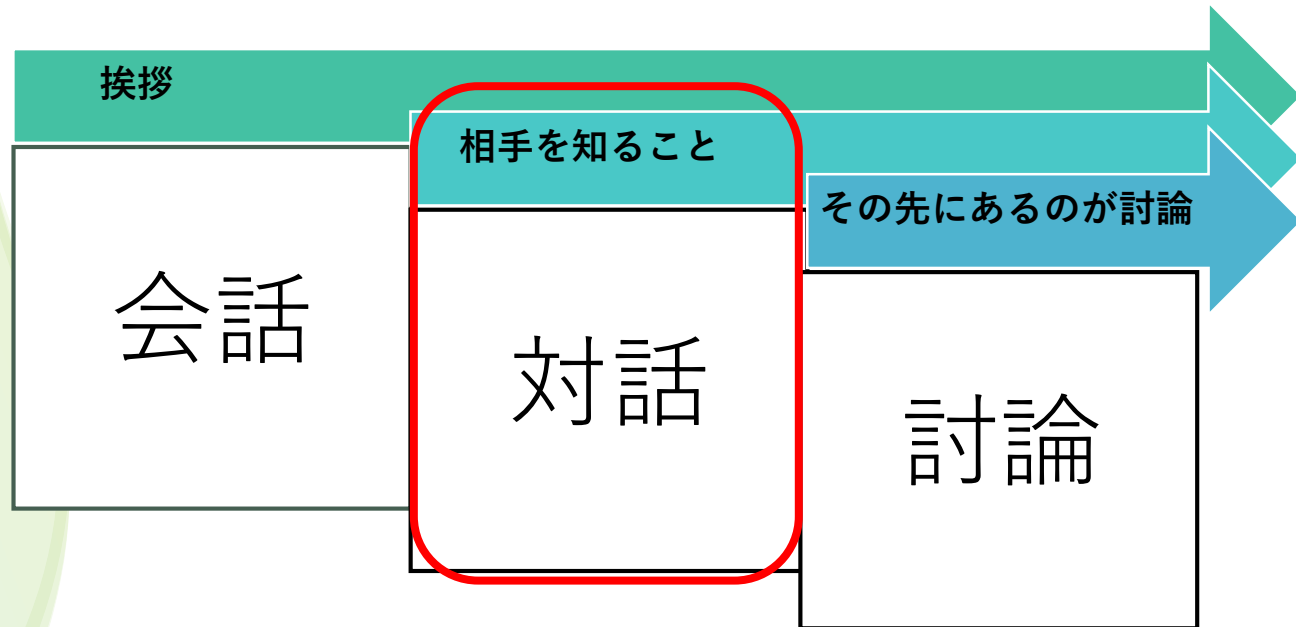
“対話の場”の役割と効果



「会話」は
人間関係の距離を保つためのもの

「対話」は
相手を理解し相手を認め合うこと

「討論」は
何かを決定するときに必要なこと



“ファシリテーター”の役割

○語源：ラテン語のFacilis

⇒容易にする、手助けするなど

○意味：グループやチームが共通の目的を理解し、目的達成のための計画立案を支援する人

※みなさんの意見を引き出しながら「目的達成」のためのお手伝いをします！

“対話”の約束

- 話すことよりも、考えることが目的！ゆっくりと話す。
- 言っていることが分からなければ、質問をして理解に努める。
- 聞いているだけでもOK、沈黙もOK。ただし、考えることは諦めない。
- 話している人の話を最後まで聞く！みんなが安心して話せる場を作りましょう。
- ほかの人を傷つける発言でなければ、自由に話してOK。
- 意見よりも、質問することが大事。

Qワード：「なんで？」 「たとえば？」 「反対は？」 「ほかの考えは？」

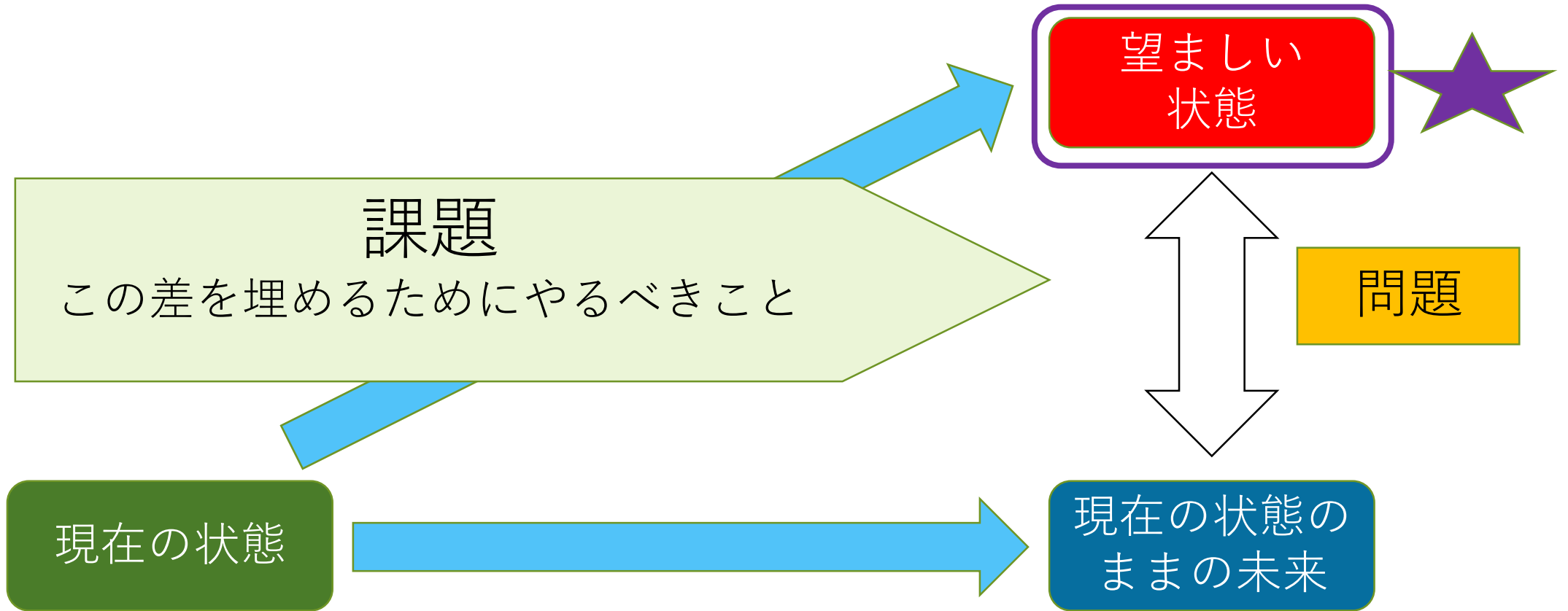
“ワーク” ①

○「西伊豆町の子どもたちが小学校に入学するまでに身に付けてほしい力」

【進め方】

- ① 1つの付箋に「1つ」書く
- ② 書いた付箋を模造紙に「理由」を述べながら貼る
- ③ 関連がありそうな意見をいくつかのグループにまとめる。可能であれば「小見出し」をつける
- ④ 全体に向けて発表する方を決める

“ワーク” ①



“ワーク” ①

○「西伊豆町の子どもたちが小学校に入学するまでに身に付けてほしい力」

【発表・聴く】

- ①「小見出し」があるところは述べる
- ②他者の「意見」や「理由」を聞いて「なるほど！」「そうだ！」と思ったことを発表する
- ③聴く側は「同じ点」「違う点」を意識して聴く

“ワーク” ②

- A 「西伊豆町のこども園に期待すること」
- B 「こども園の『現状』で知りたいこと・分からないこと」

【進め方】

- ① 1つの付箋に「1つ」書く⇒ AとBは付箋の色を変える！
- ② 書いた付箋を模造紙に「理由」を述べながら貼る
- ③ 関連がありそうな意見をいくつかのグループにまとめる。可能であれば「小見出し」をつける
- ④ 全体に向けて発表する方を決める

“ワーク” ②

○ A 「西伊豆町のこども園に期待すること」

B 「こども園の『現状』で知りたいこと・分からないこと」

【発表・聴く】

A: 他者の「意見」や「理由」を聞いて「なるほど!」「そうだ!」
と思ったことを発表する

B: 出た「意見」を端的に列挙する

第2回の予定

